様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	生活・健康系コース（技術・工業・情報）／尾崎　士郎

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」の意図は教員養成の修士レベル化と深い関わりがあるように感じるが、あえて基礎的な教育に位置付くような学部教育の内容にも無縁ではなく重要な係わりがあると考えられるので、学部と大学院教育について記述したい。本コースでは基本的に学部と大学院共に教員就職状況が非常によい（二次合格者が多い）ので、授業内容、授業方法と成績評価についてこれまでの基本方針をさらに徹底する等、以下の点に留意したい。

①授業内容

学部と大学院共に，技術教育で重要な「知ること」「できること」「考えること」に関する指導項目を考慮したきめ細かな学習指導力が身に付くように授業内容を構成したい。特に大学院の授業では、技術教育と教科専門に関する未知の課題を解決するための資質向上を図るため、技術的な研究課題解決のための授業内容を充実することを意識したい。

②授業方法

学部と大学院ではこれまで通り、すべての授業において、技術教育と教科専門に関する基本的な知識・理解の充実を図り、さらにそれらを活用したスキルの能力と指導力、プレゼンテーション能力を含む言語活動に関する資質の向上を図る。

③成績評価

演習と実技を含む授業では，授業内容への取り組み，小テストとレポートの内容，ディスカッションの内容について詳細に評価することを試み，授業へのフィードバックを心がけたい。

2．点検・評価

学部では結果的に4年生全員がすべて正規合格、多様な学生が占める大学院生も多数の正規合格を得てくれた。教員採用試験合格と高度専門職業人としての教員を養成していると決めつけられないが、コース全体として一定の成果をあげ、その一翼を担うことができたのではないかと考えている。授業内容、授業方法と成績評価について留意したことは以下の通り。

①授業内容：学部と大学院共に，網羅的に多くの技術教育に関する指導内容を体験することは困難であるが、特定の題材を用いた課題の解決の中できめ細かな指導を心掛けた。大学院における研究指導においても同様である。

②授業方法：上記にも関連するが、技術教育と教科専門の内容の関連に配慮しながら、それらを活用したスキルの能力と指導力、プレゼンテーション能力を含む言語活動に関する資質の向上を図るように配慮した。

③成績評価：演習と実技を含む授業では，授業内容への取り組み，小テストとレポートの内容，ディスカッションの内容について詳細に評価することを心掛け、授業の改善に役立てようとした。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

教育において，取り組みたい内容は以下の通り。
1．講義・演習ではディスカッションを取り入れるなどの工夫を行って教員として必要なコミュニケーション能力の育成，確かな基礎的学力や応用力の向上と定着を図る。
2．技術の専門科目では実習の科目が無いため，学生の実技・実験等力量の低下が無いように，教育論・演習等での教材開発等実習を含む内容の充実を図る。また従来通り，教員採用試験対策も積極的に取り入れて，学生の即戦力としての資質・能力の向上を図る。
3．研究指導のためのゼミでは，教員採用試験対策を考慮して内容を工夫する。
学生生活支援においては，以下の内容を検討する。
1．各種ものづくり競技大会の技術指導，子供に対するものづくり体験ボランティア，教育と学生生活支援の一環として，コースまたは研究室等学生と共に取り組む。
2．社会体験，ならびに研究成果を社会に還元する取り組みの一環として，徳島県下研究機関と協力し，産官学連携の徳島県森林利用創造センターと工業技術センター等の各種催し物に研究室学生と共に協力する。
3．課外活動では，3件の学生表彰を頂いたが，これまで通り，弓道部顧問として指導の充実を図りたい。また戦績以前の問題として，年間を通じて文武両道を目指し，規律を守り安全に気をつけて活動することが教職を目指す学生にとって重要であることを理解してもらうことに心がけ，4月以降に新人部員を得ることにも協力したい。

2．点検・評価

これまで通り、講義・演習では発表やディスカッションを取り入れる等して教員として必要なコミュニケーション能力、基礎的学力や応用力の向上と定着を図るように心掛けた。技術の専門科目では実技・実験等を含む教育の実施を心掛け、また教育論・演習等での教材開発等実習を含む内容を実施し、また従来通り、教員採用試験対策も積極的に取り入れて，学生の即戦力としての資質・能力が向上するように配慮した。特に研究指導のためのゼミにおいても、学生の要望を聞き、時間を増やして、教員採用試験対策を考慮した内容を工夫して実施した。
教育と学生生活支援の一環として、中学生による各種ものづくり競技大会の技術指導，子供に対するものづくり体験ボランティアやJST予算による科学・技術者養成プログラムの教育研究活動を、コースまたは研究室等学生さらに学内外の教員と取り組んだ。徳島県との協力のもと，産官学連携の徳島県森林利用創造センターと工業技術センター等の各種催し物に研究室学生と共に、特に徳島県産材利用促進ならびに木育活動企画等で協力した。課外活動では前年度に引き続き，個人と団体の学生表彰を受け，弓道部顧問として支援したが、実際には学生と接する機会が減少し、むしろ自発的な活動の成果であり、感謝している。今後もこれまで以上に文武両道を目指して活躍してもらいたいと願っている。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

従来からの技術教育に関する教材開発，木質材料の物性，手加工と機械加工のメカニズムに関する基礎研究，地域の素材を活かした新しい木材の開発とその教育的利用に加えて，新たに木質材料の音響特性に関する研究に新たに取り組む。
研究活動として取り組む主な内容は以下の通り。
1．技術教育に関する教材開発と授業実践研究
2．木質材料の物性に関する基礎研究
3．木質材料の切削および機械加工に関する基礎研究（他大学との共同研究）
4．地域の技術を活かした新しい素材の開発と教育的利用
5．「技術科教員養成での修得基準の作成及びその基準による検定制度と競争的教育環境の構築」に関する研究
6．木質材料の音響特性に関する研究（他大学との共同研究）

2．点検・評価

これまでの技術教育と材料加工に関する研究の経験によって、学生の研究に対する幅広いニーズに対応できるようになってきたが、現在の学部と大学院の研究課題の中で、さらに新しい研究課題に取り組み始めている。材料加工に関するものづくり教育の中で工具機械の維持管理は重要な課題であるが、その中でも刃先の切れ味試験に関する研究を開始し、研究推進の目処が立ってきた。かなりの研究環境を整える必要があるが、新たに木質材料の音響特性に関する基礎的な研究に取り組み、この研究課題についても、研究推進の目処が立ってきた。これら以外に学内外組織と協力しながら、森林資源の有効活用を視野に入れた木育と称する教育研究活動、他大学との共同研究として木質材料の切削および機械加工に関する基礎研究、地域の技術を活かした新しい素材の開発と教育的利用等の研究を実施した。
残念なことに、ここ数年間は、学内外業務が重複して日程の確保が困難でるために、研究発表の機会が得られず論文を投稿できない状況が続いている。次年度は通常業務と研究発表等日程が微かに重複していないので、研究発表等活動を開始したい。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

現在担当している入試企画の運営について努力する。今年度大学院定員充足を果たすことができなかったので，その総括を行って，次年度大学院定員充足の方法の改善について検討する。これを元に作成した方略（特に大学訪問）を活用しながら，具体的に定員充足の活動が組織的に機能するように心がけたい。成果がすぐに現れるかどうかは不明であるが，できることならば，この2年目で定員充足が叶うことを願って，以下の検討を行いたい。
1．平成25年の大学院定員充足を果たすことができなかった原因の究明と反省，ならびに次年度定員充足の方法の再検討と改善を行う。
2．前記内容の大学院入試委員会と全学への説明と共に，組織的な大学院定員充足に向けた活動のお願いを行う。
3．各コースによる大学院定員充足に対する取り組みの充実への貢献、ならびに自らの大学院定員充足活動の改善と充実を図る。
4．総務委員会にも継続して出席することになるので，大学運営上の課題解決に寄与したい。

2．点検・評価

平成23年度をピークにこれ以降、大学院定員充足状況が悪化してきたが、ここ2年間、260名程度に踏みとどまり、大学院入学者が下げ止まったと思いたい。ここからU字できることならばV字状に回復し大学院定員充足を実現したいと願っている。しかし、現状はそれほど楽観できないように感じる。これまでの活動で感じている理由等は以下の通り。
1）大学院定員充足率と就職内定率とは負の相関があり、かつ就職内定率が改善され続けているので、大学院定員充足率が下降する要因を含んでいる可能性がある。2)現職教員派遣が減少する中で、兵庫教育大学大学院への集中度が高まっている傾向があるように感じる。また教育委員会訪問（例えば鹿児島県、山陰地方ほか）で現職教員から鳴門教育大学大学院に行きたいとする声があがらないのは何故か？鳴門教育大学が他大学（兵庫と上越教育大学）とどこが異なり、どの点が優れているのか？、それが分かれば教育委員会から広報する際に強調しますよと逆に聞かれる場合がある。3)前項と関係があるが、兵庫教育大学の積極的な広報と方略を感じる。4)上越教育大学大学院定員充足の大幅な下落は理由が不明であること含めて驚きであり、本学大学院に当てはまることがないように、十分に大学院定員充足活動を強化する必要がある。5)入試データの分析も必要で、ここ数年にわたって入学者があった特定の大学から全く入学者が亡くなった場合（関西学院大学、中部地区大学ほか）があり、これらの広報を強化することと、さらに新規開拓も必要である。6)私個人的な定員充足活動もより一層充実する必要があり、先方の大学と本学との組織的な繋がりを強化する必要があり、特に四国内の関係が密な大学訪問には入試課職員と出向き、当方の対応を経験してもらった。
今後の大学院定員充足活動に活かし、継続したい。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

1．ものづくり教育等を通じて，附属学校教員や徳島県下の現職教員と連携し，現職教員の各種研究会活動等の充実に貢献する。
2．徳島県総合教育センターや鳴門市等を介して，地域社会の教育活動や催し物に出席し貢献する。
3．地域連携として全国中学生ものづくり競技大会の技術指導を徳島県下，中国四国地区9県，全国の全日中研究会現職教員との交流と連携を図りながら実施する。
4．ものづくりに関する地域の催し物に研究室学生他と積極的に出席し，地域住民，子供達，青少年や留学生との交流を拡充する。
5．これまでに徳島県森林総合技術センター，工業技術センター等徳島県研究機関との協力態勢について充実する努力を継続する。

2．点検・評価

「Ⅱ－1．教育・学生生活支援」と重複するので、参照してください。
ものづくり教育等を通じて，附属学校教員や徳島県下の現職教員と協力し、徳島県総合教育センターや鳴門市等で開催の教育活動や催し物に出席した。地域連携として全国中学生ものづくり競技大会の技術指導を徳島県下，中国四国地区9県，全国の全日中研究会現職教員と協力してスキルコンテストの審査等を実施した。徳島県庁農林水産局、徳島県森林総合技術センター，工業技術センター等徳島県研究機関と協力して、徳島県産材利用促進に関係する事業に関わり、特に学生、教育関係者、産業技術者、建築士会会員や一般社会人を含めた木育円卓会議座長、産学官連携による徳島県木材利用想像会議の会長ほか担当を通して、運営に携わりつつ貢献しようと努力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

特になし。